

# 南郷高PTA新聞

第60号 2020年3月1日発行



発行 宮城県南郷高等学校 PTA

〒989-4204

宮城県遠田郡美里町大柳字天神原7

電話 0229 (58) 1122

印刷 三和印刷所

## CONTENTS

PTA会長挨拶	1
校長挨拶	2
活動報告 (単P事務局研修報告)	2
活動報告 (高P連大崎支部研修会)	3
活動報告 (PTA登校時一声運動)	3
活動報告 (南郷高祭バザー・喫茶コーナー運営)	3
活動報告 (マラソン大会豚汁支援)	3
1学年からの報告	4
2学年からの報告	4
3学年からの報告	4
令和元年度事業中間報告・編集後記	4



南郷高祭  
(本校)



校内マラソン大会



校内マラソン大会PTA豚汁  
おにぎり支援 (本校)



復興支援 (1 学年)



インターンシップ (2 学年)

## PTA会長あいさつ

PTA会長 西海土久美子

今年度のPTA会長を務めさせていただきました、西海土と申します。大役を背負い、不安な気持ちを抱えながら新学期を迎えましたが、保護者や先生方、地域の方々の大なるご支援や優しさに支えられながら、無事に完走することができましたことを深く感謝申し上げます。

この一年間は繁忙を極める日々を送りましたが、様々なことを学ぶことができ、知識を深めることができました。加えて、こどもたちの学校生活に関わる機会が増えたことで、とても充実した日々を送ることができました。

さて、この度三年生が卒業を迎え、南郷高校という学び舎を巣立ちました。貴重な高校生活をどのように過ごしてきたのでしょうか。きっと多種多様な経験ができたであろうと考えております。楽しかったこと、嬉しかったこと、がんばったことなど、たくさん思い出ができたことでしょう。

逆に、努力が報われなかったり、間違えてしまったり、後悔してしまうようなできごとで、落ち込むこともあったかもしれません。しかしそれを「失敗」と捉えないでほしいと思います。「こうすれば、このような結果になることを学べた。」とか、「次はこうすればよい」ということが分かった。」などと、それらの経験を前向きにとらえ、自分のことを大切にできる大人になってほしいとのぞんでおります。

また、学校生活では校長先生を始め、先生方に、日頃より熱心なご指導や丁寧な心配りをいただいたことと思います。多忙な中でも、先生方は生徒たちのことを第一に考え、寄り添ってくださったことを忘れないでほしいです。

こうして晴れの日を迎えることができたのも、保護者の方々がお子さまに深い愛情を持ち、一生懸命育て、鼓舞してきた成果だと思います。長い人生の中の、ほんの数年間ですが、きつとお子さまにとって、かけがえのない時間になったと信じております。

そして在校生のみなさんは、これからの残りの時間、南郷高校でいろいろなことを学ぶチャンスがあります。一日一日を有意義に過ごし、今後の長い人生に役立ててほしいと、心より願っております。

最後になりましたが、次年度のPTAの更なる発展を期待いたします。ご挨拶とさせていただきます。



## コミュニケーション最前線

校長 佐藤 善則



電車やバスの人混みの中を通り抜けなくてはならないとき、「すみません」と声を発する人は少なくありません。病院の待合室などで看護師が自分の氏名を呼んで受付で待っているときも、「はい」と返事をする人は減りました。私は、このようなときには「すみません」「はい」と言うべきだと主張しているのではありません。ただ単に、ちよつとした言葉が発する場面がここ二十年程度の間で格段に減ったことを指摘しているのです。「おはようございます」や「ありがとうございます」という言葉にも同様のことが言えるように感じます。

この現象の原因の一つは、コンピュータやスマートフォンなどの電子メディアの発達であることは確実でしょう。コンピュータにはそのようなちよつとした言葉の配慮は必要ないからです。また、丁寧さを美化する傾向が強い日本人が、過度の形式主義を排除するようになったことも一つの要因でしょう。日本人は、「以心伝心」の考えに基づき、身近な人々とは言葉も多く交わさず、見知らぬ他者にはちよつとした声かけで配慮を示す慣習を持ちます。その善し悪しは別にして、伝統的な日本式コミュニケーションの在り方が変化を迫られています。一方で、グローバル化の拡大によって、日本人とは大きく異なる慣習を持つ人々と一緒に働く環境が生まれ、日本の慣習を適切に伝え教えながらそれを変えざるを得ない状況が生じているのです。

多人種国家であるアメリカでは、「言

論」という行為、特に口頭で直接語る行為が重視されます。家庭では小さい頃から「ぐずぐずしないでどうしたいのかはつきり言いなさい!」と教わり、学校教育では物事を論理的に口頭で表現することが尊重されます。昔私が見たアメリカの高校でのある授業では、「数学は自然の中に存在しており人によって発見されたのか、それとも人によって新たに創造されたのか」というテーマで、生徒たちは一時間以上も活発に討論し続けていました。まるでサッカーをして遊んでいるかのように、このテーマについて語ることを楽しんでいました。テーマそのものは重要ではなく、説得力のある議論を述べて勝とうとしていたわけですから。この様子を見た私は、「これでは日本人が勝つわけがない!」と痛感させられました。

さて、これからの日本では、どうすればよりよいコミュニケーション能力を育てることができるのでしょうか。高等学校と大学で討論の仕方と論理的な思考方法を学ぶこと、社会全体で「多様性」を尊重するマインドを育成すること、大人も子どもも議論を楽しむ習慣に親しむこと、あることについてなぜやらなくてはならないのか、どのようにやればいいのかを論拠をもつて語るよう推奨することなどが挙げられます。このことは、個々の人間と社会の在り方の変革を意味するため、容易には成し遂げられません。しかし、各個人、各家庭、各学校、各企業、各地域行政の努力次第だと私は考えています。最後に、それでもなお、日本人としての優しさ、慎ましき、繊細さ、しつかり守りたいものです。「言論」が尊ばれる西洋においてすら、「沈黙は金、雄弁は銀」と言われるのですから。

「宮城県高等学校PTA連合会  
単位PTA事務局長研修会」  
に参加して

教頭 千葉 貢

令和元年十二月四日(水)に仙台市の「仙台市福祉プラザ・ふれあいホール」において宮城県高等学校PTA連合会単位PTA事務局長研修会が開催され、本校PTA事務局長として参加しました。

開会行事に引き続き、コクヨ東北販売株式会社代表取締役社長の岡竹博昭氏から、「高校生にのぞむこと」と題して記念講演をいただきました。岡竹氏は、大学卒業後に東芝に入社され、アメリカ向け半導体営業を行ったそうです。二年後にはシリコンバレーで勤務し、当時は無名のアップルやヒューレットパッカード、ゼロックスを担当され、その六年後にコクヨグループに転職し、二〇〇六年からコクヨ東北販売株式会社代表取締役社長となられました。これまでの体験も踏まえて、企業が高校生に求める資質や能力を、企業経営者の広い視点から講演いただきました。講演では「なぜ勉強しないといけないのか?」「働くということ」等について話されました。勉強すること、世の中を変えられるかもしれない「力」を持つということ。働くことは「人とのつながり」「親切心と感謝」「一つのことに集中」この三要素を持てて、そこから個人の成長や、社会的意義を感じて働くことができる。そして、保護者や教員には、「理想の夢や目標を探し続けること、それが『生きる』ことかもしれない。夢を見つけるには、今、興味のあることに

全力投球する。それを繰り返し、本気で取り組むことが生徒を成長させていく。失敗を恐れずにチャレンジしていく環境を作ることが大事ではないか。」と話されました。

昼食・休憩を挟んで、石巻商業高校、松山高校、佐沼高校、名取高校、仙台第三高校から「PTA活動の現状と活性化に向けて」の話題提供がありました。地域や学校の規模の違いはあるものの、各校とも本校と同様に、PTA総会をはじめとする学校行事への出席率低下や役員の引き受け手の不足が大きな課題となっているようです。

また、PTA研修旅行の研修内容に体験活動を取り入れ、その研修作品を文化祭で展示するなど保護者が楽しめるような行事を催し、学校への関心を高める工夫も行うことができました。

本校でも旭山探検学習やマラソン大会では、生徒が保護者の方々に作っていただいた豚汁を心待ちにする様子が見られました。また、文化祭のパザールの収益金を台風十九号で被災された方のために寄付する取り組みも行いました。中心となってご協力をいただいた役員の方々に感謝しつつ、今後より多くの方にPTA活動に参加していただけるよう努力していかなければと感じました。



インターン・シップ (2学年)

関西修学旅行 (2学年)  
～ユニバーサルスタジオにて



## 「PTA登校時一声運動」に参加して

PTA会長 西海士久美子

昨年度に引き続き、今年度もPTA登校時一声運動に参加させていただきました。正門のところに立ち、登校してきた生徒に挨拶をする運動で、学校の雰囲気を知ることができることも意義のある機会だと思います。小雨が降る中だったためか、保護者の車で登校してきた生徒が多く、挨拶を交わした回数には少なかつたものの、元気に登校している生徒たちの姿を見ることができて安心しました。

今年度、仙台市で行われた宮城県高等学校PTA連合会健全育成委員会に出席した際に、県内の他の公立高校の登校時一声運動の活動報告を聞かせていただきました。学校それぞれに工夫を凝らしており、中には文化祭に合わせて登校時一声運動を行っている学校もありました。この運動は県全体では参加者が減少傾向にありつつも、今年度の実施率は上昇傾向にあるらしく、今後が期待できるものでした。



## マラソン大会豚汁支援に参加して

PTA会員 小林 江美

今年、最後のマラソン大会の豚汁支援へ参加しました。晴天にも恵まれ無事に終えることができ、先生方、PTA会員、保護者の皆様にこの場を借りて感謝いたします。



一年生の頃から豚汁支援に参加させていただきましたが、どの年も、生徒の一生懸命走る姿と成長に触れられる大切な行事だったと思います。

当日は、朝早くから仕込みをして、見たことのない大きな鍋二つ分の豚汁と、大量のおにぎりを作りました。マシンの様に手早く作るPTA役員の皆様の働きはすごかったです。それと同時に、作業をしながらの会話も盛り上がり、学年問わず生徒の高校生活を知ることができ、保護者同士の交流も一層深まりました。

マラソン後に提供した大量の豚汁は、瞬く間になくなりました。おかわりする生徒に「とても美味しかったです。」と言われて、私の気持ちも満腹になりました。お忙しい中ではありますが、ご都合が良かったです。ぜひ参加していただき、これからもマラソン大会を盛り上げていていただきたいと思います。

## 「宮城県高校PTA連合会 大崎支部秋季研修会」に参加して

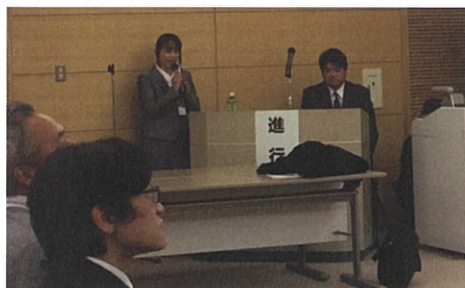
PTA会長 西海士久美子

十一月二十一日に大崎合同庁舎において宮城県高等学校PTA連合会大崎支部研修会が行われました。内容としては、まず岩出山高校より八月に京都府で開催された全国高等学校PTA連合会大会についての報告と、松山高校より七月に山形県で開催された東北地区高等学校PTA連合会について報告がありました。どちらの大会もPTAの情熱を感じられる素晴らしいものだということが感じ取れました。

次に話題提供として、古川黎明高校と古川工業高校からPTAの活動報告がありました。具体的なPTA活動の内容や、文化祭などの様子を聞くことができて、大変勉強になりました。

また、村田町教育委員会からお越しいただいた三浦純氏による「PTAができる対話的学び」という演題の講演会を拝聴しました。トークフォークダンスというものを盛り込んだ参加型の講演会で、とても楽しく学ぶことができました。

PTA活動についての研究協議ができ、大変意義深い時間を過ごさせていただきました。実りある機会をいただけたことに感謝しております。



## 南郷高祭バザー・喫茶コーナー運営に参加して

PTA副会長 佐藤 弘美

南郷高祭を無事に終えることができました。各家庭からのご提供、心から感謝申し上げます。また、前日から値札つけや会場準備、運営や後片付けにご協力を頂きました先生方、PTA役員、保護者の皆様に深く感謝致します。

南郷高祭の当日は、天候にも恵まれ大勢の保護者や地域の方々が来校され、バザー、喫茶コーナーも大賑わいを見せました。子ども達の活気あふれる声、笑顔が飛び交っている様子に、改めて南郷高校に入學できて幸せだったと感じました。三年間PTA役員としてお手伝いさせて頂いたことで、先生方や保護者の皆様との交流を深めることができ大変うれしく思っております。今後も多くの保護者の皆様方にご協力を頂き、先生方と子ども達と一緒に行事を盛り上げてほしいと思います。





## 2学年

2学年主任  
佐藤 栄聡

保護者の皆様、日頃より本校の教育活動にご協力をいただきまして、厚く御礼を申し上げます。

今年度2学年生徒は、中堅学年として学校生活において中心的な役割を担おうと、学習や行事に意欲的に取り組む姿が見られました。

10月、周辺地域の事業所の協力の下、インターンシップが実施されました。3日間の実習を通して、職業人として必要な資質を身につけ、進路決定に向けた大きな経験を積んできました。

12月、2学年最大の行事である修学旅行が4日間の日程で実施されました。京都・奈良・大阪などの他府県の歴史や文化に触れてきました。自主研修では、友人と協力し施設や寺社などの観光名所を巡る姿が見られました。この団体行動を通して、規律やマナーの重要性を再認識したと思います。

学年行事以外でも、旭山探検学習、南郷高祭、マラソン大会など、生徒達は一生懸命活動に取り組み、大きく成長した姿を見せてくれました。

来年度は、進路を決定する大切な年度となります。保護者の皆様のご理解とご協力をいただきながら、教員も生徒個人の進路決定を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



関西修学旅行

## 令和元年度PTA事業中間報告

4月 8日	PTA入会式
4月 19日	平成30年度第3回役員会
4月 27日	教育講演会・PTA総会
5月 24日	旭山探検学習(豚汁提供)・大崎支部通常総会
6月 6日	県高P連総会
6月 25日	大崎支部単P会長・事務局長会議
6月 27日	PTA会員研修(芸術鑑賞会)
7月4・5日	東北高P連総会(山形市)
9月 6日	第1回PTA役員会
9月 11日	PTA登校時一声運動
10月 1日	第59号南郷高PTA新聞発行
11月 2日	南郷高祭参加(バザー販売・喫茶コーナー)
11月 8日	マラソン大会(PTA豚汁・おにぎり支援)
11月 21日	大崎支部研修会
12月 4日	県単P事務局長研修会
2月 14日	第2回PTA役員会
3月 1日	第60号南郷高PTA新聞発行

## ★編集後記★

3年生の保護者の皆様方、ご卒業おめでとうございます。お忙しい中、3年間PTA活動や子ども達の学習面・生活面で支援をしていただき深く感謝申し上げます。3年生は高校を巣立ちますが、今後も社会に羽ばたく卒業生の支援をよろしくお願い申し上げます。ご活躍を心から祈念しております。

また、1・2年生の保護者の皆様方にはこれからも引き続きPTA活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 1学年

1学年主任  
鈴木 愛

保護者の皆様、日頃より本校の教育活動にご協力をいただきましてありがとうございます。生徒達にとっては、新しい生活習慣を身につけ人間関係を築いていく中で、多くの学びがあった1年間だったのではないのでしょうか。

1学年では、今後の学習の基礎となる行事を実施しました。4月のオリエンテーション合宿では、志津川で震災についての話を聞き、慰霊を行いました。総合探究の時間には、石巻専修大学の山崎泰央先生より「問題解決のための思考法」を学ぶことができました。12月には石巻で支援活動を行い、災害からの復興について考える機会を持ちました。さらに今年度は新しい試みとして、1月に産業技術科で行われている学習発表会で、石巻での支援活動について1学年全員が発表を行いました。生徒はさまざまな経験を通して、自分自身や地域との関わりについて考えを深めることができたと思います。

新年度は中堅学年となり、インターンシップや修学旅行などの大きな行事も控えています。生徒達には責任を持って行動できる力を身につけていけるよう指導していきたいと考えております。今後とも保護者の皆様のご理解とご支援をお願いします。



復興支援

## 各学年からの報告

## 3学年

3学年主任  
石川 隆男

保護者の皆様、日頃の本校の教育活動にご協力いただきまして厚く御礼申し上げます。

最終学年として学校生活において、生徒達は進路実現や学校行事において積極的に取り組んでおりました。

5月の旭山探検学習では、率先して行動しました。8月の救急救命講習会では、例年にない猛暑の中で一生懸命取り組みました。9月からの進学・就職試験では、様々な目標に向かって企業や学校の進学試験や就職試験に取り組みしました。11月の南郷高祭やマラソン大会では、3学年として生き生きとした表情や行動で活動していました。

「自分自身を生かさなくてはならない。たったひとりしかいない自分をいかさなくてはならない」

南郷高等学校で学んだ3年間を糧にして、しっかり自分を見つめ、自分を大切に社会に役立つ人になってください。

最後に「卒業おめでとう」と言いたいと思います。



本校敷地内の桜の木の前で